

労働映画百選通信 No.03 2015.12

発行 ■ NPO法人 働く文化ネット 編集 ■ 清水浩之 〒101-0062 千代田区神田駿河台3-2-11 連合会館5F

あなたのおすすめ「労働映画」は？

【労働映画についてのアンケート調査】実施しています！



労働映画 スペシャルサイト
<http://hatarakubunka.net/>

いま、働くことをめぐる困難がますます高まる中で、世界の多くの国々で労働を主題にした多くの映画作品が製作され、人々の共感をあつめています。そして、映画と労働の世界との関わりについての歴史的関心もまた高まっています。日本映画も同様に労働に向き合ってきた長い歴史を持ち、現在も多くの労働映画が産み出されています。

そこで、私たちは日本の映画作品が、仕事と暮らしの実態、働く人たちの悩みと希望、あるいは働くことの意義と喜びをどのように描いてきたかを考察し、現在と未来に向けての教訓をくみとることをめざし、**日本映画百年の歴史が産んだ代表的労働映画百本**を選ぶ作業を進めています。

その活動の一環として、映画と労働の世界にご関心を持つ多くの方々に、これまでに見た日本の労働映画の中で、もっとも印象に残る作品、多くの人に見てほしいと思う作品についてお教えいただき、日本の代表的労働映画百本を選ぶにあたっての参考にしたいと考え、アンケート調査を実施することとなりました。

調査は無記名であり、ご記入いただいた内容については統計的に処理しますので、個々の調査票を公表したり、調査の目的以外に使用することは一切ございません。

つきましては、調査の主旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

2015年7月1日

NPO法人 働く文化ネット 労働映画百選選考委員会

【上映情報】労働映画列島！ 2015年12月～16年1月 ※【労働映画列島】で検索！

◎新作ロードショー

ア・フィルム・アバウト・コーヒー 《12月12日(土)から 東京・新宿シネマカテで公開、全国順次公開予定》
ニューヨーク、シアトル、東京など5つの都市で活躍するコーヒー店オーナーたちの仕事を追ったドキュメンタリー。
(2014年 アメリカ 監督/ブランドン・ローパー)

ひつじ村の兄弟 《12月19日(土)から 東京・新宿武蔵野館ほかで公開、全国順次公開予定》
アイスランドの村を舞台にした人間ドラマ。40年間にわたり不仲だった兄弟が、疫病から羊を守るために力を合わせる。
(2015年 アイスランド、デンマーク 監督/グリームル・ハウコーナルソン)

ヤクザと憲法 《1月2日(土)から 東京・ポレポレ東中野で公開、全国順次公開予定》
東海テレビ製作のドキュメンタリー映画第8作。暴力団排除条例施行以降の、組員とその家族たちの人権問題に迫る。
(2015年 日本 監督/土方宏史)

◎名画座・特集上映

- 【広島市映像文化ライブラリー】～12/19「映画による日本紀行」…馬／集金旅行／寅次郎忘れな草／他
- 【京都文化博物館】12/8～27「映画日本百景 北海道～青森編」…馬喰一代／女ひとり大地をゆく／蟹工船／他
- 【渋谷 ユーロスペース】12/12～18「イスラム映画祭」…ガザを飛ぶブタ／二つのロザリオ／他
- 【田町交通ビル】12/19「レイパーフェスタ2015」…川柳人 鶴彬／アリ地獄天国(土屋トカチ監督新作)／他
- 【渋谷 ユーロスペース】12/19～25「ニッポン・マイノリティ映画祭」…リュミエール 明治の日本／コタンの口笛／他
- 【大阪 第七芸術劇場】12/19～『今夜、列車は走る』…アルゼンチンの鉄道員たちを描いた人間ドラマ(2004年)
- 【ラピュタ阿佐ヶ谷】12/20～2/27「映画探偵の映画たち」…何が彼女をそうさせたか／電車が軌道を守る迄／土／他
- 【ラピュタ阿佐ヶ谷】12/20～2/20「東京映画地図」…都会の空の用心棒／明日は月給日／その場所に女ありて／他
- 【角川シネマ新宿】12/26～1/15「若尾文子映画祭 青春 アンコール」…閉店時間／四十八歳の抵抗／他
- 【TOHO日本橋/ほか全国55館】12/26～1/8「新・午前10時の映画祭」…アパートの鍵貸します／素晴らしき哉、人生！
- 【宮崎キネマ館】1/2～8「トラ祭2016」…男はつらいよ 奮闘篇／寅次郎真実一路／トラック野郎 望郷一番星

【テーマ研究】#3 《教育の現場》を描いた作品 資料作成:清水浩之

日本の労働映画の歴史を辿るとき、縦軸には「時代」があり、横軸には様々な職業や仕事の形態、労働の意義や現場の課題など、多岐にわたる「テーマ」が広がっている。この欄は、テーマごとに関連作品を発掘していく試みである。

第3回は《教育の現場》を描いた作品を集めてみた。戦前から戦後、そして現在に至るまで、映画・テレビは常に時代ごとの「理想の教師」像を描き続けてきた。『青い山脈』の原節子や『二十四の瞳』の高峰秀子は「あの時代」ならではのアイコンであり、夏木陽介や中村雅俊が演じた「熱血教師」も、当時の教育界へのアンチテーゼだった。近年は『ごくせん』(2002年、仲間由紀恵)『女王の教室』(天海祐希)などで女性教師が「ヒーロー化」する一方、男性教師は『鈴木先生』(長谷川博己)『ビリギャル』(伊藤淳史)など「穏やかホスト系」になってきたのも興味深い。

今年の国会前行動での鋭いコールが目された「SEALDS」メンバー・福田和香子さんは、声を上げることの大切さに気づいたきっかけとして、中学生の頃、『君が代不起立』『私を生きる』の根津公子先生が、停職処分を受けながらも校門前で静かに抗議を続ける姿を目撃したことを挙げていた(7月11日・朝日新聞 朝刊社会面より)。根津先生は教壇に立てない間も、校門前に毎日佇むことで、生徒たちに「大切なこと」を教え続けていたことが証明されたといえよう。

【劇】信子(1940) 松竹大船
監督/清水宏 出演/高峰三枝子 [DVD]
獅子文六の小説を映画化。東京の封建的な女学校に赴任した体操教師が、持ち前の明るさで校内を変えていく。

【劇】青い山脈(1949) 東宝 監督/今井正 出演/原節子
民主主義が到来した地方都市で、封建的な因習に立ち向かう生徒と教師。以後4回再映画化。[DVD]

【劇】白雪先生と子供たち(1950)
大映東京 監督/吉村廉 出演/原節子 [VIDEO]
日教組と労映が募集した劇映画筋書の当選作を映画化。どんな子にも平等に教育を受けさせようとする女性教師。

【劇】山びこ学校(1952) 八木プロ/北星
監督/今井正 脚本/八木保太郎 出演/木村功 [DVD]
山形県山元村の中学教師・無着成恭が指導した、生徒たちの作文集を映画化。“生活綴方”に力を注ぐ教師たち。

【劇】二十四の瞳(1954)
松竹大船 監督/木下恵介 出演/高峰秀子 [DVD]
壺井栄の小説を映画化。昭和3年、小豆島の分教場に赴任した女性教師の目から、教え子たちの人生を描く。

【記】教室の子供たち 学習指導への道(1954)
岩波映画 企画/文部省視聴覚課 監督/羽仁進 [DVD]
小学校教諭にクラス運営の方法を説く作品。教室内にカメラを置き続け、子どもたちの行動をリアルに記録する。

【劇】闘争の広場(1959) 新東宝
監督/三輪彰 出演/沼田曜一、三ツ矢歌子
勤務評定闘争に揺れる小学校での、両派の激しい衝突。

【劇】人間の壁(1959) 山本プロ/新東宝
監督/山本薩夫 出演/香川京子、宇野重吉 [DVD]
佐賀県で起きた教職員の労働争議をモチーフに、学校現場での教師への弾圧に対する闘いを描いた社会派ドラマ。

【TV】青春とはなんだ(1965-66) 日本テレビ=東宝
監督/松森健ほか 脚本/井手俊郎ほか 出演/夏木陽介
アメリカ帰りの教師がラグビーを通じて生徒と触れ合う。『われら青春!』(1974)まで続く学園シリーズ第1作。

【劇】こころの山脈(1966) 本宮方式映画製作の会/東宝
監督/吉村公三郎 出演/山岡久乃
福島県本宮町民が中心となって製作。久々の教壇に立つ産休教師が、戦後民主教育に戸惑いつつ師弟愛を育む。

【劇】先生のつうしんぼ(1977) 日活児童映画室
監督/武田一成 出演/渡辺篤史、木村政彦 [VIDEO]
新任の先生に「通信簿」をつけてやろうと思いつく少年。

【劇】聖職の碑(1978) 東宝
監督/森谷司郎 原作/新田次郎 出演/鶴田浩二 [DVD]
大正2年、木曾駒ヶ岳で起きた遭難事故を基に、極限状況下での師弟愛を描く。

【TV】3年B組金八先生(1979-2011) TBS
脚本/小山内美江子ほか 出演/武田鉄矢 [DVD]
東京・足立区の中学校に赴任した教師が、生徒の非行やいじめなど、様々な問題を真正面から受け止め奮闘する。

【劇】スパルタの海(1983) 東宝東和ほか
監督/西河克己 出演/伊東四朗 [DVD]
非行少年や不登校児の更生指導を行う戸塚ヨットスクールの日々。戸塚宏校長らの逮捕により劇場公開中止となる。

【劇】家庭教師(1987) 監督/出演/渡辺文樹 [VIDEO]
福島在住の渡辺が、自らの体験を基に製作。熱血指導で人気の家庭教師が、生徒や母親と「男女の関係」を持つ。

【劇】ザ・中学教師(1992) メリエス/アルゴ
監督/平山秀幸 出演/長塚京三 [DVD]
校内暴力や非行などの問題を抱える中学校で、冷静さを失わず指導を行っていく教師の姿を描く。

【劇】学校(1993) 松竹ほか
監督/山田洋次 出演/西田敏行、田中邦衛 [DVD]
幅広い年代の生徒が集まる夜間中学校の人々。

【TV】女王の教室(2005) 日本テレビ 演出/大塚恭司ほか
脚本/遊川和彦 出演/天海祐希、志田未来 [DVD]
小学6年生のクラスに現れた、“悪魔”のような教師。彼女は「地獄のような1年間」で、子どもたちを成長させていく。

【TV】ドラゴン桜(2005) TBS=MMJ 演出/塚本連平ほか
脚本/秦建日子 出演/阿部寛 [DVD]
三田紀房のマンガをドラマ化。元暴走族の弁護士が私立高校の経営再建のため、在校生の東大合格を目指す。

【記】君が代不起立(2006) ビデオプレス [DVD]
石原都政下の時代、「君が代」斉唱時の不起立による停職処分とたたかう教員たちを追ったドキュメンタリー。

【記】“私”を生きる(2010) 監督/土井敏邦 [DVD]
東京都の教育現場で「日の丸」「君が代」強制に抗い、弾圧を受けながらも自らの信念を貫く3人の教員を記録する。

【TV】鈴木先生(2011) テレビ東京=アスミック・エース
演出/河合勇人ほか 出演/長谷川博己 [DVD]
武富健治のマンガをドラマ化。生徒指導に独特の哲学を持つ中学教師が、校内の様々な問題に対処していく。

【劇】ビリギャル(2015) TBSほか/東宝
監督/土井裕泰 出演/有村架純、伊藤淳史 [DVD]
学習塾講師・坪田信貴の著書を映画化。学力最下位の女生徒が一念発起し、有名私大に現役合格するまで。

【記】みんなの学校(2015) 関西テレビ 監督/真鍋俊永
児童や教職員、地域住民が一体となり“すべての子どもに居場所がある学校”を目指す大阪・大空小の取り組み。

ジャンル:【劇】劇映画【記】記録映画【TV】テレビ番組 ソフト:[DVD][VIDEO]
※このリストを引用する時には【労働映画百選より】と付記いただきますよう、お願いします。

【作品ガイド】『孤独なツバメたち デカセギの子供に生まれて』

文:波多楽久

2011年/88分 提供/浜松学院大学地域共創センター 監督/津村公博、中村真夕
 「デカセギ」の親と共に来日した日系ブラジル人の青年たちの実態を捉えたドキュメンタリー。
 2008年秋、突然の不況で職を失い、帰国することになった5人の若者たちの2年半を追う。
 日系ブラジル人の調査・教育支援を行う浜松学院大学教授・津村公博と、劇映画『ハリヨの夏』(2006)、ドキュメンタリー『ナオトひとりつきり』(2015)を監督した中村真夕による共同作品。



[DVD] TOブックス

“美しい国”日本が 彼らを「部品」のように扱ったことを 忘れてはならない。

「デカセギ」とはポルトガル語で“Decasségui”。日本が「経済大国」となった1980年代以降、かつて移民としてラテンアメリカ諸国に渡っていた日系人が、短期の「出稼ぎ」目的で故国に戻って来るようになった。やがてバブル真只中の1990年、日系二世・三世の入国と就労を正式に可能とする改定入国管理法が施行されると、多くのデカセギ者が日本に渡って来た。彼らは主に、労働力不足に悩まされていた製造業の担い手となり、東海地方や群馬県など各地にコミュニティを形成するようになる。中でも日系ブラジル人は、全国に30万人以上が暮らしていた。ところが2008年、世界的金融危機「リーマン・ショック」が起きると、彼らの多くが勤務先の工場から契約を打ち切れ、日本で他に仕事を探そうにも見つかるのは非常に難しいため、せつかく「定住」を始めたのにもかかわらず、帰国を選択せざるを得なくなる。

この作品は、浜松で生まれ育った「デカセギ」家族の子どもたち5人が、「生まれ故郷」から追い立てられる理不尽さをもどくように受け止めていったかを記録している。外国籍のため「日本の義務教育」が適用されない彼らは、中学を中退して工場で働いている者も多かった。「日本にいても何も身につかない」と痛感し、大学への進学を目指す男の子。一方で「日本の「表の社会」ではリスペクトされない」と悟り、ブラジル人のギャングを結成、車上荒らして捕まった男の子。テレビのニュースショーなら扇情的に取り上げるであろう出来事も、津村教授と中村監督は「地元の知人」のようなスタンスで話を聞き、やがてブラジルで新しい生活を始めた彼らの姿も、丁寧に記録していく。

結論は提示されないが、作品を見終わって実感するのは、日本は彼らを「部品」のように取り寄せ、そして自分の都合であっさり見捨てた…という事実である。今さらではあるが、たとえば未来の日本を共に支え合う人材として「育てる」ことはできなかったのだろうか。そして私たちも、“一億総活躍”などとおだてられながら、いつの間にか日本経済の「部品」と見なされているのかも知れないと、あらためて考えてみたくなった。

【労働映画のスターたち】第3回 「山本太郎」 文:百永良武

2015年9月18日深夜、参議院本会議の「安全保障関連法案」採決でただひとり「牛歩戦術」を行く、日本中がその「歩みの遅さ」に注目した新人議員。議長席から投票を急かされ、採決を早く終わらせたい与党議員から嵐のようなヤジを浴びながらも、飄々とした表情で時間を稼ぐ姿は、歌舞伎なら大向うから「待ってました」「日本一！」と声がかかりそうな役者っぷりだった。そんな彼＝山本太郎の独壇場を見ていると、俳優時代にもこれと似た場面をよく演じていたなあ…と覚えてきた。『崖っぶちの似合う男』、山本太郎の作品歴を追ってみよう。



世界ウルルン滞在記 (1997)

1974年、兵庫県東塚市出身。高校1年生の時に、日本テレビ『天才・たけしの元気が出るテレビ!!』の視聴者参加企画「ダンス甲子園」に出場。競泳用のパンツ一丁でキレのある踊りを見せる「おもしろい兄ちゃん」はたちまち人気者となり、ドラマや映画にも出演するようになる。オシャレな若者が増えた1990年代、彼の無骨なキャラクターはかえって重宝されたようで、『突然炎のごとく』(1994)『ゲロッパ!』(2003)など、井筒和幸監督作品での気のいいアンちゃん役をはじめ、NHKの朝ドラマ『ふたりっ子』(1996)、深作欣二監督の『バトル・ロワイアル』(2000)などで重要な役を演じる。竹内力・主演の人気シリーズ『難波金融伝 ミナミの帝王』(1999～2004)でも、借金の取り立て人として『悪名』の田宮二郎を彷彿とさせる軽妙な味を出し、“悪い奴らをやっつける悪い奴”になりきってみせた。



EDEN (2012)

一方で彼は、マイリティとしてたくましく生きていく役柄も多い。『夜を賭けて』(2003/金守珍)での、大阪の砲兵工廠跡から夜な夜な鉄屑を盗んでくる在日朝鮮人“アパッチ族”の中心人物。『歌舞伎町案内人』(2004/張加貝)の、日本社会に馴染めず“裏社会”に潜り込む中国人留学生。そして『EDEN(エデン)』(2012/武正晴)では、20年前に故郷を捨ててゲイ・コミュニティで生きてきたショーパブ店長と、一癖も二癖もある役を堂々と演じ切っていた。職業体験ルポの連載をまとめた初の著書『母ちゃんごめん 普通に生きられなくて』(1998/ぴあ)のタイトル通り、「普通に生きられない」境遇こそが彼の本領という気もする。



初の著書 (1998年、ぴあ)

俳優・タレントが海外でホームステイ体験をする紀行番組『世界ウルルン滞在記』(毎日放送)では、リポーターの代表的存在として活躍。「子どもの頃にテレビで見て以来、ずっと憧れていた」というニューギニアの裸族と共に暮らし、伝統的な正装「コテカ(ペニスケース)」を身に着けることを認められて大喜びする天真爛漫さには、見ているこちらも思わずニコニコしてしまった。

もしも40年早く生まれていたなら、高倉健や菅原文太のような大スターになっていた気もするのだが、彼のスケールを受け入れられる舞台は、今の日本では永田町くらいしかないのかも知れない。これからは、国会をはじめ様々な「崖っぶち」に立つ山本太郎の雄姿を見続けていきたい。

労働映画百選通信 No.03/2015.12

【レポート】第23回 労働映画鑑賞会

2015年11月12日(木)「時を超える連帯の文化」

10～12月期は、「伴を慕う心、連帯のかたち」を統一テーマにプログラムを組みました。

上映作品 友子儀式 北海道夕張市真谷地炭鉱楓坑 1973年/30分

江戸時代からの古いしきたり、炭鉱夫同士の友愛組織「友子制度」が現存していた北海道・夕張の真谷地炭鉱楓坑での、非常に貴重な映像記録です。

映画上映の前に、友子研究の第一人者、村串仁三郎先生(法政大学名誉教授)から「友子制度」の概要と、この作品の見どころなどについて、ご講演をいただきました。



村串仁三郎先生

【労働映画鑑賞会】10～12月の統一テーマ：伴を慕う心、連帯のかたち

働く文化ネットでは、毎月第2木曜日に労働映画鑑賞会を開催しています。

お気軽にご参加ください。

場所:連合会館 2階 201会議室(地下鉄 新御茶ノ水駅 B3出口すぐ)

参加費:無料(事前申込不要、どなたでも参加できます)



第24回「子どもを見守る地域の絆」

日時:12月10日(木)18:30～

(18:00開場)

上映作品

ボタ山の絵日記

1957年/39分 監督/徳永瑞夫



内容■

筑豊の炭鉱地帯で暮らす生活困窮児たちを描いたセミ・ドキュメンタリー作品。

筑豊炭鉱地帯の労働組合、教育委員会、福祉団体など、地域をあげた協力体制のもとに制作された。

監督の徳永瑞夫(1917～1991)は、八幡製鉄で労組文化部長をつとめ、レッドパージ退社後に映画界へ。

共同映画、記録作家協会などで多くの作品を演出した。

上映後には、連合総研主任研究員の麻生裕子さんからコメントをいただき、会場の皆様との意見交換を行います。ぜひ多くの方々に鑑賞していただきたいと存じます。ご参加をお待ちしています。

【労働映画鑑賞会】2016年2月には、下記のプログラムを予定しています。

第25回「交通安全の最前線にて」

日時:2016年2月4日(木)18:30～(18:00開場)

場所:連合会館 2階 201会議室

※1月はお休みです。2月は第2木曜日が休日なので第1木曜日夜に開催します。

上映作品

ドキュメント 路上 1964年/54分 監督/土本典昭

内容■1963年、オリンピックに向けて都市整備工事が急ピッチで進む東京では、突貫工事のために道路事情は一挙に悪化していた。そうした状況下で働くタクシー運転労働者の、違反や危険なしには働けない労働実態に鋭く迫る。

この作品は、交通安全映画として警察庁に買い上げられ、活用されることになっていたが、完成後未公開のままとなった。

